～生息状況調査～

ヤマネコの分布や生息密度、生息数などを把握するために、環境省（対馬野生生物保護センター）、長崎県、対馬市のほか、大学などの研究機関や島内在住の調査員が協力し、ヤマネコの生息状況を毎年継続的に調査しています。ここではその調査方法についてご紹介します。

自動撮影調査

動物が前を通るとセンサーが反応し、自動で写真を撮ることができる「自動撮影カメラ」を林道や獣道（動物が通る道）に設置し、その場所にどんな動物がくるか調べます。

目的別に２タイプのカメラを使用！

誘引物を天井部分に置き、額や胸の模様を撮影して個体識別を行う。

獣道沿いに設置し、自然な行動の中で通過する時間帯や頻度を調べる。

わかること

- 模様や耳切れ→個体識別
- お尻（生殖器）→性別
- お腹（メスの乳頭）→授乳しているか
- 体サイズ→成獣、幼獣

など…

痕跡調査

道路上にある動物の痕跡（フンや足跡など）を探す調査です。決まったルートを定期的に調査することで、その動物の生息状況の変化を知ることができます。

わかること

- フンの個数→およその生息密度や生息頭数
- フン内容物→当時の食べ物
- フン表面についた粘膜
  →個体の DNA 情報（個体識別や性別判定など）

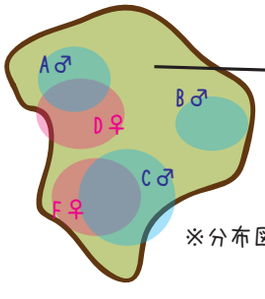
痕跡調査の様子

↓ヤマネコのフン発見！

最新技術のご紹介！

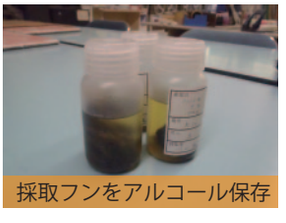
フン DNA 分析による個体識別

平成 14 年度以降からフンの DNA 分析が本格化し、現在は個体識別まで可能となりました。これによってその痕跡調査地域にオスとメスがおよそ何頭生息しているのかまで把握でき、ヤマネコ同士の位置関係や頭数をより詳しく知ることができます。



同じ地域にオス３頭、メス２頭が生息

※分布図完成イメージ

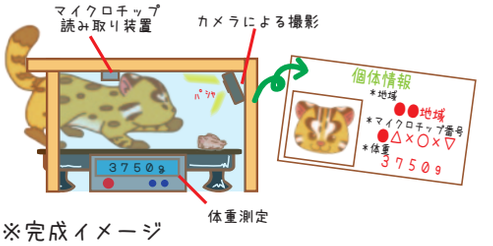


採取フンをアルコール保存

新型 BOX カメラの開発

過去に保護され検査を行なった野生のヤマネコには、マイクロチップ（1cm 程のカプセル状電子標識）が挿入されています。対馬野生生物保護センターでは、BOX 型カメラに体重計とマイクロチップ読み取り機を搭載した「新型 BOX カメラ」の開発に取り組んでおり、これによって BOX に来たヤマネコの【体重】と【マイクロチップ情報】までわかるようになります。

試作１号機



※完成イメージ

これらの調査を長期的に行うことで、生息状況や世代交代、移動の様子などヤマネコの生態がより詳しく明らかになると期待されています。